

まちを歩いていて、情報が行き交う。

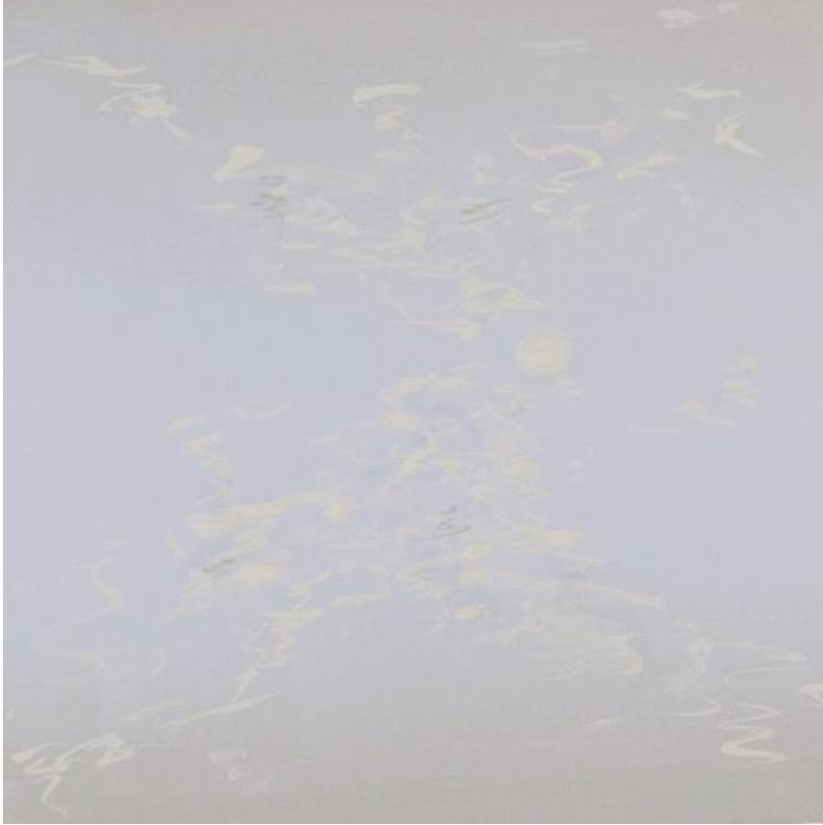
他人の言葉に惑い、行動に惑い、仕草に惑う。音に惑い、金銭に惑い。



ひとの印象



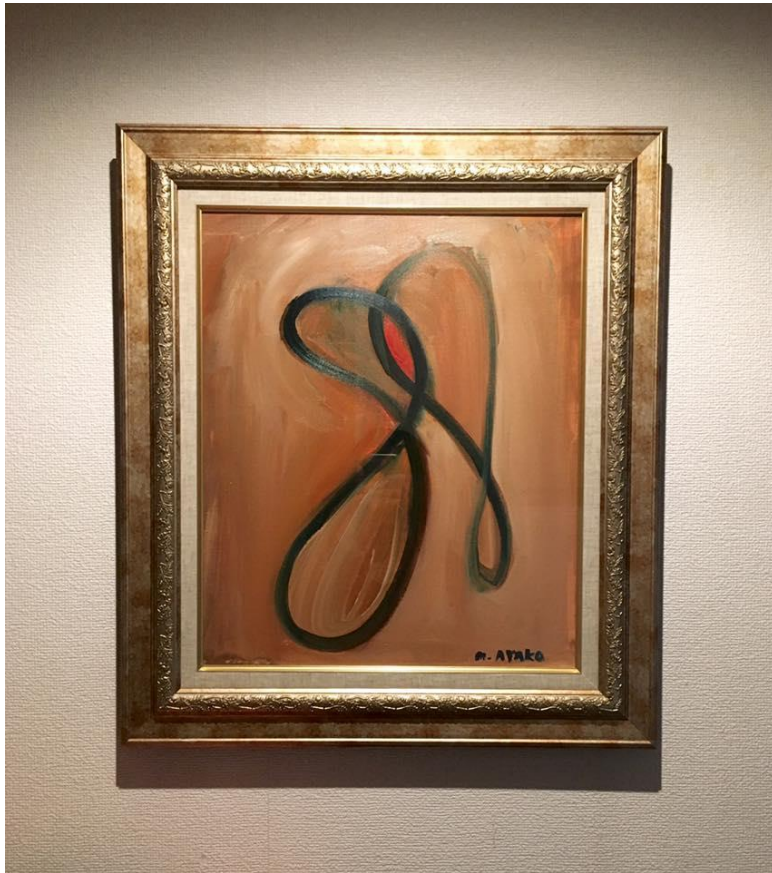
すみえ



雲



琴線と憐憫シリーズ・雨傘（タイトル日付）



『人と人、触れる。』 2009年

(論文的に書きますがすみません。)

わたしの住んでいるまちは、少し緊張していると感じる時がある。

新長田は ところが静かだ。たつの市もだったが・・・

思っているのは、「 わからない 」と、『 ひとの印象 』なのだが、

そこに 近さと、遠さがあり 例えばバスで電車で荷物をひざに置く。『おかなければなら
ない。他人の為に。』と言う時、わたしにはキャンバスの意識で同じ者である、他者と自己
が、そこで、小さくなった自己=大きくなった他人。として現れる、

ことが 『知人よりも見知らぬ他人の間で』、著しい。そこに なぜ 人は出て行こうとする
のか。

アートは、そしてそこで、「ほっとさせるための」では無く、例えば『身を守ろうと』、吠
える こととして 何を生むのか…。

知人は安息の地だ。「そこで、説明すべきことは 特にない。」喜び。もう、知っているか

ら。あなたは私を、

地域活性化会議

提出書類（村上→小國）

2018. 12. 15 『ふたば学舎』